

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：環境教育研究所

27A-34

代表者：所長 福田 直

URL : www.hisseki-kenkyujyo.com

1. 活動が必要とされた状況

学校・社会教育における教科学習・環境学習を調べると、生態系構成要素の中で大気や水、生物などに較べて、土壌指導は消極的である。また、学校教員あるいは自然観察会などの指導者にアンケート調査をした結果、土壌を取り上げ、扱っている割合は極めて低い。その主な理由は、土壌が大切であることはわかっているがどう指導したらよいかがわからない、土壌は教材として扱いにくい、などである。それゆえ、土壌教育を実践することが極めて重要と考え、活動を必要と考えた。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

〈実施時期〉①2024年11月2日（土）9:00～12:00

②2024年11月10日（日）9:00～15:00

〈参加人数〉①9人 ②7人

〈活動内容〉

- ・ 講義
- ・ 講義に対する質疑及び土壌を授業教材とする指導案作成事例の解説
- ・ 観察・実験「土壌の粒子組成」、「土壌の浄化機能」
- ・ 観察「土壌モノリス（黒ボク土・褐色森林土）」
- ・ 土壌モノリスに対する質疑及び土壌実験の解説
- ・ 実験「土壌の吸着機能」
- ・ 指導案の作成、指導案の発表
- ・ 指導案に基づく授業実践報告書提出についての説明



3. 活動の成果

本事業の助成活動決定後から実施までの期間が短かったことから、教育委員会の後援申請ができなかった。そのため、学校等へのチラシ配布が許可されず、公民館、図書館、博物館等へのチラシ設置もできなかった。高校生物研究会に働きかけてチラシの配布を実施することができたが、その開催に参加したごく一部の教員等への配布であり、参加は定員に満たなかった。しかし、参加された県立高校の先生方は大変熱心に取り組んでいただき、土壌を教材とした指導案を作成していただいた。

4. 今後に残された課題

本事業では、上記のとおり教育委員会の後援申請ができず、小学校・中学校教師や学芸員等の参加が得られなかったことが課題である。また、今年度は土壌教材を活用する指導案づくりを行ったが、今後各教員が現場で作成した指導案に基づいて、授業実践する予定であり、残された課題は、さらに指導案づくりを進めながら、各教員からの授業実践報告を受けて、情報交換し、実践を重ねて「授業実践事例集—土壌編」を作成することである。